



「日々、努力を積み重ね、お客様の悩みを解決するために力を尽くすことが大事！」

東京皮膚科・形成外科 総院長 池田欣生 × 和田倉門法律事務所 弁護士 内田久美子

和田倉門法律事務所のマネージングパートナーで、弁護士の内田久美子氏。これまで主に企業のコーポレート・ガバナンス（企業統治）や会社関係の争訟、税務調査対応など、顧客の様々な相談に向き合ってきた。一方の池田氏は医師として日々、多くの患者と向き合っている。弁護士と医師、士業（サムライ業）を代表する2人の本音に迫ると――。

法律という武器を持つことで社会の問題を解決する

池田 今回は和田倉門法律事務所マネージングパートナーで弁護士の内田久美子さんに登場いただきました。大学は文学部の哲学科を卒業されていますが、そこから弁護士を志したきっかけは何だったのですか。
内田 学生時代はジャーナリストになりたいと思っていました。正直、学部にならなければありませんでした。哲学科の美学美術史学専攻を選んだのは、人をひきつける美

とは何か、ということに興味があったからです。実際には、学部の勉強はあまりせず、大学外での活動が多かったですね。それはそれで勉強になることも多く、大きな糧になったと思います。
一方、ジャーナリスト試験ですが、対策不十分のまま受けてしまい、結果的に合格することができませんでした。それで今後どうしようかと思っていた時に、たまたま司法試験予備校の授業の録音テープを聞く機会がありまして、憲法や法律って面白いなと思ったのがきっかけです。
池田 え、司法試験の授業が面白いんですか（笑）。六法全書を読むのとか、いかにも難しそうですね……。

内田 ええ（笑）。先生の授業がわかりやすかったというのもあると思うのですが、やはり、法律という武器を使って、社会の問題を解決することができるといふことに魅力を感じたのです。そこで大学を卒業してから約3年間勉強して司法試験に合格し、司法修習を経て弁護士になりました。
しかし、お医者様になるのも難しいですよ。逆にお伺いしますが、なぜお医者様になろうと思われたの

ですか。
池田 私の場合は家族が医者だったんです。祖父は外科医、父は内科医でしたから、親は私にも内科医になってほしかったみたいなんです。医大に入って何を専門にするか悩んでいた時に大阪で当時、一番きれ

いと言われたホステスさんに出会いました。その人はとてもきれいな人で驚いたら「でも、整形ですよ」と言うんですね。自虐的というか、冗談交じりに言った言葉だったんですけど、私はそれでもいいと思った。むしろ整形の何がいけないのかと。

内田 なるほど。それで一気に美容医療に興味が出てきたのですか。
池田 ええ。ですから、私はどちらかというと、自分の研究のためにやっている部分が多いんです。人が永遠に若さを保つとはどういうことなのでしょう？ 美しいとはどういうことでしょうか？ というのをテーマにやってきました。自分が技術を磨くことによって、多くの人の役に立ちたい。そうした気持ちがあるのはもちろん大前提ですけどね。

諦めたらそこで終わり

池田 ところで、事務所の名前が和田倉門ということ、皇居の近くにあるんですね。

内田 ええ。皇居までは歩いてすぐのところ。以前は、仕事の後などに皇居の周りを走ったりもしていたのですが、最近はすっかりご無沙汰しています（笑）。

池田 さて、法律事務所というのは、ほとんどの人にとって最後の駆け込み寺ですから、敷居が高いイメージがありますよね。それなりに費用も高いというイメージがあるんですが、費用はどう決めているんですか。

内田 案件によりですが、訴訟ですと、弁護士会の報酬規程に準じること多いです。
報酬規程によりますと、例えば300万円を請求する訴えを提起するであれば、その8%を着手金として頂戴し、裁判で全面勝訴すると、成功報酬として16%を頂戴することに なります。ただ、具体的な費用は、案件によっても異なりますし、個々の法律事務所によっても違いますので、事前に見積りを出すことが多いのではないのでしょうか。
池田 それと弁護士の方って、毎日どれくらいの裁判があって、どれくらいのクライアントを抱えているものなんですか。

内田 私の場合、法人のお客様も個人のお客様もいらっしゃいますが、法人の顧問先は数十社あります。毎日、法廷に立つわけではありませんが、訴訟は少なくとも数件、多いときは十数件くらいになることもあります。ただ、訴訟案件よりも、そこに至る前の交渉案件や相談案件のほうが圧倒的に多いです。

池田 私の知り合いで弁護士さんはいませんが、「こんな細かいことまで調べるの？」というくらい徹底的にヒアリングして調べるんですか。



うちだ・くみこ

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。2000年弁護士登録、鳥飼総合法律事務所（08年よりパートナー）。06年から07年まで青山学院大学大学院法学研究科講師を兼任。16年和田倉門法律事務所設立。現在、ミサワ、トレジャー・ファクトリー、ビューティガレージの社外取締役の他、インターネットの社外監査役をつとめる

内田 月並みですが、やはり私もお客様に喜んで頂けた時です。お客様の悩みを解決し、お客様の胸のつかえが取れて、「ありがとう」と言ってくれた時が一番嬉しいですね。

池田 それは私も一緒ですね。やはり患者さんの悩みを解決できた時は一番嬉しいですね。内田さんは弁護士として一番嬉しい時はどんな時ですか。

和田倉門法律事務所

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-1
 大手町ファーストスクエア イーストタワー19F
 TEL 03-6212-8100
<http://wadakura.jp/>

東京皮膚科・形成外科銀座院

〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8
 ラウンドクロス銀座3F
 TEL 03-3545-8000
<http://www.251901.net/>

内田 出合いの機会を大切にすることはとても大事ですね。その出合いが人生を変えることもありまうし。本を読んで気づかされることも多いですが、どなたかにお会いして学ぶことの方が私は多いです。

池田 それでは、逆に内田さんは弁護士としてどんなことを心掛けていますか。

内田 これはお客様の目的にもよ

るのですが、専門家としての知識や経験があることは当然の前提として、弁護士の自己満足にならないように心がけています。

例えば、お客様としては、必ずしも時間をかけてでも全面勝訴することを望んでいらっしゃるには限りませんが、できれば訴訟に至らない段階で、迅速に合理的な解決に至ることを求めていらっしゃることも多いですね。仮に訴訟になったとしても、必ずしも判決で白黒つけたいと思っ

ていらつしゃることも限らない。弁護士としては、ここはもう少し強気でいけるのではないかと、実務上の先例となる判決になるなどと思っ

たとしても（笑）、それがお客様の意向に沿うとは限りませんので、節目、節目でご意向を確認するようにしています。

一方、立証を含めた事実関係や判例などに照らして、あまり筋が良いとはいえない案件でも、紛争に至るまでの経緯や感情の問題などもあつて、強気なお客様もいらつしゃいます（笑）。

そのような時は、お客様のお気持ちに寄り添いつつも、専門家として、お客様を説得していくことも仕事のひとつだと思っています。それには、お客様との信頼関係が前提になければなりませんので、人間力も必要ですね。なかなか一筋縄にはいきませんが、お客様の課題や悩みを共に解決していくために、あれこれと悩みな

がらやっています。

池田 それは私も一緒ですね。やはり患者さんの悩みを解決できた時は一番嬉しいですね。内田さんは弁護士として一番嬉しい時はどんな時ですか。

内田 月並みですが、やはり私もお客様に喜んで頂けた時です。お客様の悩みを解決し、お客様の胸のつかえが取れて、「ありがとう」と言ってくれた時が一番嬉しいですね。

もちろん、弁護士ですから、訴訟に勝つた時や、反対尋問がうまくいった時などは単純に嬉しいですね。ですが、弁護士の仕事は、戦うのが目的ではなく、解決するのが目的だと思っ

ています。

とはいえ、レジュメを作成する時や講演の準備をしている時は、非常に苦しみますね。平日の日中はなかなかまとまった時間がとれません。

私は、民法や会社法などの法改正があつた時や、民事・商事・税務の新判例がでた時など、企業や専門家団体などから、講師の依頼を頂くことが多いです。そうしますと、嫌でも勉強せざるを得ませんから（笑）、ありがたい機会を頂いていると思っ

ています。

事務局長も同様です。本当に感謝です。また、法律や判例は常に新しくな

るのですが、専門家としての知識や経験があることは当然の前提として、弁護士の自己満足にならないように心がけています。

例えば、お客様としては、必ずしも時間をかけてでも全面勝訴することを望んでいらっしゃるには限りませんが、できれば訴訟に至らない段階で、迅速に合理的な解決に至ることを求めていらっしゃることも多いですね。仮に訴訟になったとしても、必ずしも判決で白黒つけたいと思っ

ています。

池田 常にお医者様の世界も同じですよ。

内田 それはお医者様の世界も同じですよ。

池田 ええ。私も常に最先端の医療技術を習得したいと思っ

ています。技術だけではなく、道具にもこだわりたいと思っ

ています。

池田 常にお医者様の世界も同じですよ。

内田 それはお医者様の世界も同じですよ。

池田 ええ。私も常に最先端の医療技術を習得したいと思っ

ています。技術だけではなく、道具にもこだわりたいと思っ



いけだ・よしお

大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学附属病院形成外科入局。同大学附属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる

で、結局、休みの日や深夜早朝を使って準備することになります。専門誌の原稿もわかりです。半分冗談ですが、毎度毎度なぜお受けしてしまつたのだらうと思つたりして（笑）。

ですが、いわゆる弁護士業務と同様、受講者の方々から、すごくわかりやすかったと喜んで頂けると、その疲れも吹っ飛びますね。そこであの辛さも忘れて、新たな講演をお引き受けるわけです。そのような生活を、気づいたらもう20年近く続けています。

池田 常に学び続けるということ

は大事ですよ。

内田 それはお医者様の世界も同じですよ。

池田 ええ。私も常に最先端の医療技術を習得したいと思っ

ています。技術だけではなく、道具にもこだわりたいと思っ

個々の出合いを大切に...

んなの無理だよ」と言ってしまう、それ以上の進歩はありません。でも、日々、努力を積み重ね、最先端の技術を取り入れていくことが大事なのかなと思っ

内田 世界一の道具までお作りになられるというのは相当のこだわりですね。池田さんは他にもお医者様として何か心掛けていらっしゃることはありますか。

池田 医者だからではないですが、私は人との出合いを大切にしようと考えています。実は大学時代に家で試験勉強をしていたら、ある時、実家に来ていた方が部屋に入ってきて、「みんな集まっているのだからここに来い」と言うんです。

こっちは勉強しているのに「なんぞ？」と思っ